



# 沖縄本島中部及び 周辺離島の文化財

# 本島中部及び周辺離島





市指定史跡

藪地

洞穴遺跡

うるま市与那城屋慶名藪地島



26° 18' 52.6" N

127° 55' 42.54" E

市指定史跡（平成29年3月17日）

用語解説

●爪形文土器

外表面のほぼ全面に、人の爪や指先で施したような文様、あるいはそれを模した文様が見られる深鉢形の土器。沖縄県では縄文時代早期に属しており、その分布は沖縄島と渡嘉敷島、奄美諸島に限られている。

小さな島だけど、9000年も前に人が住んでいたんだね。



2016年の調査では、9000年以上も前の土器や貝などが発掘されたんだよ。



遺跡全景



藪地洞穴遺跡は、勝連半島の北側に浮かぶ藪地島にある洞穴を利用した遺跡です。

最初の発掘調査は1960（昭和35）年に行われ、土器や石器、貝製品等の遺物が多数出土しました。その中には、土器の表面に親指の先と爪を押しつけて文様をつける「爪形文土器」がありました。その後の研究でこの土器は約6000年前に作られていた事がわかり、その当時、沖縄で最も古い土器として位置付けられました。また、貝殻の縁を加工して刃を作り出した貝刃や、二枚貝を鋭く加工した貝鏃（矢の先端）等の貝製品も出土しています。

2014～2016（平成26～28）年に試掘調査を実施したところ洞穴の奥から土器や貝殻、動物の骨が多数発見されました。これらは、「爪形文土器」の時代よりもさらに古い時代のものと考えられ、沖縄文化の起源を研究する上で重要な資料と言えます。

遺跡は森林に囲まれ、洞穴の前方には海が広がっています。かつて洞穴に暮らしていた人々が海や森で貝殻や植物を採っていた情景を今でも思い描くことができるのです。

【参考文献】

・国分直一・三島格、1965。「ヤブチ式土器：琉球と奄美大島における文化交流の一証跡」、下関水産大学校研報、人文科学篇(10)：33-38, pls. 1-10.

● 発掘調査風景



9000年以上も前から利用されていた洞穴遺跡



● 石斧



● 爪形文土器



● 遺物出土状況



● 貝鏃

うるま市

# うるま市 宇堅貝塚群

うるま市宇堅



26° 22' 52.67" N  
127° 52' 27.59" E



## 用語解説

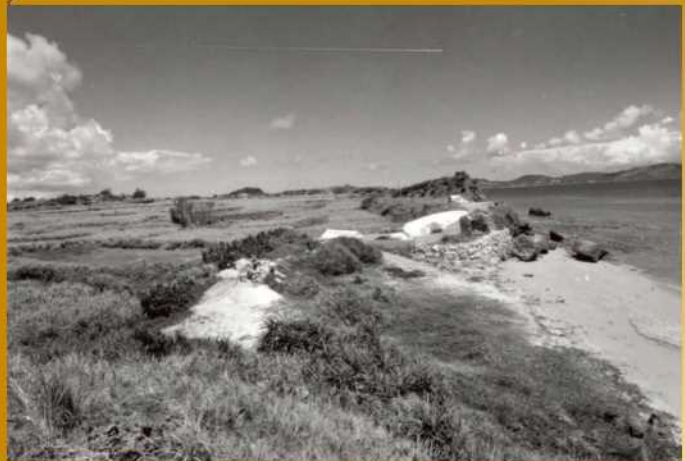
- 堆積  
土砂や生物の遺骸等が地面や海底の上に積み重なること。
- 弥生土器  
弥生時代に焼かれた土器。焼成温度は縄文土器よりも高いため、赤色で薄手だがしっかりしている。文様の無い土器が多く、口広の壺(つぼ)や、高坏(たかつき)・甕(かめ)・鉢(はち)等がある。
- 鉄斧  
鉄で作られた斧。宇堅貝塚からは板状のものが出土している。
- 銅製漢式三角鏃  
中国を起源とする銅製の鏃。中国の戦国後期・秦～前漢の時代に生産された。日本本土では弥生時代の遺跡から数例が知られ、沖縄では宇堅貝塚群のほか、読谷村浜屋原貝塚、八重瀬町新里洞穴遺跡での出土がある。

夏になるとビーチは  
たくさんの人でにぎわうけど、  
すぐ近くには  
2000年前の貝塚が  
あるんだね。



出土品には、鉄斧と一緒に  
砥石もあるんだ。鉄斧で  
木を切ったり加工したり  
した後、研いだんだろ  
うね。また、この鉄斧は  
両刃だけど右側がひどく  
すり減っているんだよ。

## 遺跡全景



## 弥生土器



うるま市 かいづかぐん かつれんほんとう  
宇堅貝塚群は、勝連半島北側の付け根にある  
うるま市 ちく せき やよい へい  
宇堅地区の海岸線に沿って造られた、弥生～平  
あんへいこう いせき  
安並行時代Ⅱ期(約2000年前)の遺跡です。

かいづか から ほね  
貝塚は昔の人々が食べた貝の殻や魚の骨、動  
ほね す たいせき  
物の骨が捨てられて堆積したもので、その中には  
土器や石器等の生活で使われた道具も含まれて  
います。

うるま市 かいづかぐん おきなわ  
宇堅貝塚群では、沖縄で作られた土器のほかに  
やよい てっぷ そうしよくひん  
九州で作られた「弥生土器」や鉄斧、装飾品とし  
こ だま こ  
て使ったガラス小玉等が出土しており、海を越え  
て九州の人々と交流していたことがわかっています。  
てっぷ どうせい かん しきさん かくぞく おきなわ  
特に、鉄斧や銅製漢式三角鏃は、沖縄での出  
土例は少なく貴重です。この遺跡は沖縄の弥生  
へいあんへいこう やよい  
～平安並行時代の文化と、日本本土の弥生時代  
の文化との交流を考える上で、重要な遺跡です。  
いせき

【参考文献】  
・具志川市教育委員会、1980、『宇堅貝塚群・アカジャンガー貝塚発掘調査報告』。



2000年前の鉄製斧や銅製鍬はどこから来たのか



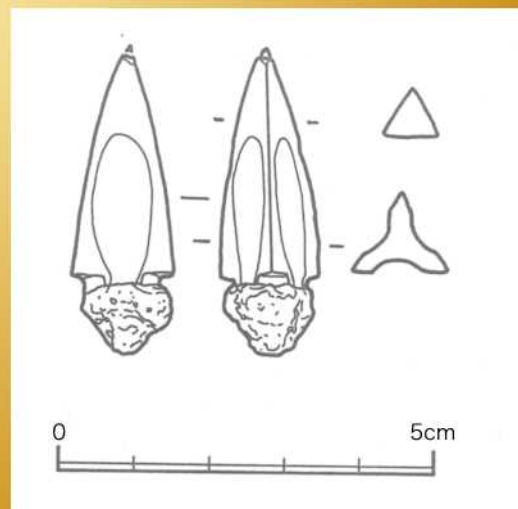
イモガイ及びゴホウラ



ガラス小玉



銅製漢式三角鍬



銅製漢式三角鍬実測図

# 楚南村跡

うるま市石川楚南



26° 23' 52.33" N  
127° 48' 54.85" E



## 用語解説

### ●サーターマール

サトウキビをしぼるための施設。円形に石を敷いた平場に、サトウキビをしぼる器具(サターグルマ)を設置して、馬や牛の力でそれを回した。

### ●焚口

火を燃やすための木材をいれる穴。

### ●ロストル

薪などをのせる格子状の器具。灰を落とすと共に、空気の通りをよくして燃焼を促進するもの。

製糖用窯跡が遺跡から切り取られて展示されているんだね。見に行きたいね。

窯跡は全長が約13m、幅が約80cm、煙道部や燃焼部、空気口、灰原などが、良い状態で残っていたんだ。また、発掘の際、跡鉄も出土したんだ。そのことから、馬にサターグルマを引かせていたことがわかったんだよ。



うるま市立石川歴史民俗資料館に展示されている製糖用窯跡



楚南村跡では、2006～2008(平成18～20)

年度にかけて、泡瀬ゴルフ場移設工事に係る緊急発掘調査が行われ、9軒の住居跡、畑遺構、サーターマール跡、製糖小屋跡、製糖用窯跡、馬車道跡などが見つかりました。

窯は地山(粘土質で耐火性がある国頭マーシ)を溝状に掘りくぼめ、壁面に扁平な石(千枚岩)を低く積み上げて形成されています。煙道部、燃焼部、空気口、灰原などの部分は良好な状態で残存していましたが、煙道部の覆土や煙突は掘削を受け残っていませんでした。窯の規模は、煙道部先端から灰原までを含めた全長が約13m、幅は約80cmです。

煙道部は蓋石が崩れた状態で、床面がほとんど火を受けていないのに対して、壁面は火を受け赤色化しています。燃焼部はサトウキビの汁を煮込む鉄鍋の置き場所でもあり、床面と壁面は火を受け固く締まっています。焚口に近い床面は一段掘り込まれ、燃焼効果を高めるための空気の取り入れ口が造られています。燃焼部と空気口との境になる床面には縦長の石をロストルとして配し、薪(あるいは砂糖汁を絞った後のサトウキビ)の燃えかすが空気口へ落下する構造です。灰原は燃焼部へ薪をくべたり、燃えかすを回収したりするための空間です。

今回良好な状態で見つかった製糖用窯跡は、窯本体から煙道部分(全長657cm、幅240cm、高さ147cm～187cm)を、切り取って保存処理が行われ、うるま市立石川歴史民俗資料館にて展示されています。

### 【参考文献】

・うるま市教育委員会、2012、『楚南村跡ほか』。



● 住居跡

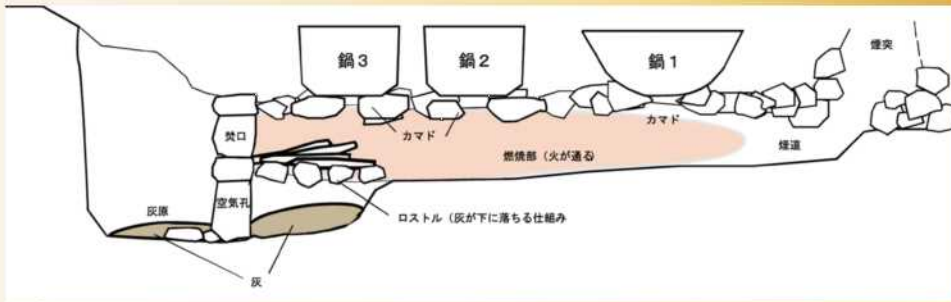


● サーターマール跡



● サーターマール跡および製糖用窯跡

製糖をはじめとした近代の産業を伝える遺跡



● 製糖用窯跡

● 製糖用窯跡断面模式図



● 出土遺物

とぐち  
**渡具知**  
 あがりばる いせき  
**東原遺跡**

読谷村渡具知東原



26° 21' 48.55" N  
 127° 44' 33.99" E



用語解説

●曾畑式土器

熊本県宇土市の曾畑貝塚で最初に出土したことから名付けられた縄文時代前期の土器。丸底の深鉢や浅鉢がある。深鉢形は口縁部がやや外反し粘土に滑石を混ぜることもある。口縁部内面から外面へ連続的に幾何学文様を配す。底の部分はクモの巣状の文様が特徴。朝鮮半島から九州・沖縄まで広く分布している。

●爪形文土器

外表面のほぼ全面に、人の爪や指先で施したような文様、あるいはそれを模した文様が見られる深鉢形の土器。沖縄県では縄文時代早期に属しており、その分布は沖縄島と渡嘉敷島、奄美諸島に限られている。

●爪形文土器（ヤブチ式）

うるま市の敷地洞穴遺跡で最初に出土したことから名付けられた縄文時代早期の土器。表面に指の先で押した痕が多く見られる。

●爪形文土器（東原式）

読谷村の渡具知東原遺跡で最初に出土したことから名付けられた縄文時代早期の土器。表面に爪や工具で刺して付けた文様が見られる。

●伊波貝塚

うるま市石川伊波にある国指定の史跡。

●荻堂貝塚

北中城村荻堂にある国指定の史跡。

遺跡遠景（北から）



とぐち あがりばる いせき は、とぐち に流れる ひ じゃがわ か  
 渡具知東原遺跡は、渡具知に流れる比謝川河口沿いにあります。1975～1977（昭和50～52）年に行われた発掘調査で、遺跡の地層は大きく二つに分けられました。上の層は縄文時代前期（約5000年前）の地層で、九州に広く分布する「曾畑式土器」が発見されています。また、下の層は縄文時代早期（約7000年前）の地層で、「爪形文土器（ヤブチ式・東原式）」が発見されています。さらに、土器と一緒に石斧・石製鏃（矢の先端）やイヌの骨も見つかり、5000年も前から人間とイヌが共に暮らしていた事がわかりました。

沖縄では渡具知東原遺跡が発見されるまで、縄文時代の遺跡は約3500年前の伊波貝塚や荻堂貝塚が最古とされていました。しかし、この発見により沖縄における土器の使用が一気に数千年も遡る事になり、その一部は九州の縄文時代前期の土器文化に由来することがわかりました。

● 遺跡遠景（南から）



## 5000年前に九州と沖縄諸島が、同じ文化圏であったことを証明する遺跡



● 土器出土状況

比謝川河口沿いに、古い遺跡があるんだね。昔も犬をかわいがっていたのかな。



● 曾畑式土器

沖縄で最初に発見された縄文時代早・前期の遺跡。爪形文土器などの他、石器の石核（せっかく）や、穀物や木の実をすり潰すときに使われた磨り石（すりいし）、石鏝（いしづち）なども出土したのだよ。



### 【参考文献】

- ・読谷村教育委員会. 1979. 『読谷村の埋蔵文化財 遺跡分布調査報告書』. 読谷村立歴史民俗資料館.
- ・読谷村教育委員会. 2012. 『読谷村文化財めぐり: ユンタンザ フィールドミュージアム』. 読谷村立歴史民俗資料館.

● 爪形文土器 (ヤブチ式)



● 爪形文土器 (東原式)



● 骨器

● 打製石斧



● 石器出土状況



● 土層堆積状況



● 石器



● チャート製品

ふきだし ばる い せき  
**吹出原遺跡**

読谷村長浜



26° 25' 7.62" N  
127° 44' 54" E

用語解説

●柱穴

堀立柱建物を建てる時、柱を立てるために掘った穴。

●高床倉庫

風通しをよくする湿気対策や、ネズミ等が入ってくるのを防ぐために、床が高く造られた倉庫。

●竪穴住居

地面を浅く掘り下げて床面とし、その上部に屋根を葺く構造の住居の跡。

●装身具

アクセサリーや魔よけとして身につけたもの。

●蝶形骨器

蝶が羽を広げた形に似ていることからこの名称がつけられた。現在、沖縄県内では見つかっていない。主に、ジュゴンのアゴの骨やあばらの骨を使って作られている。



遺跡遠景（1987年撮影）

蝶形骨器



吹出原遺跡は長浜の海岸から離れた見晴らしの良い高台にあります。遺跡の地層は大きく二つに分けることができます。上の層からは約800年前のグスク時代の大小の建物跡（柱穴）が見つかりました。グスク時代には農業（豆や米・麦の栽培）を行っていたので、6本柱は高床倉庫の可能性があり、8本以上の柱は住居と考えられます。

下の層からは縄文時代後期（約3500年前）の5つの竪穴住居跡が、広場を囲むように半円状に並んだ状態で見つかりました。また遺物としては、この竪穴住居で暮らしていた人々が使った道具として煮炊き用の土器や、木を切ったり、地面を掘ったりする石斧等が見つかりました。また、儀式を行う人や有力者が身につけていたと考えられるジュゴンの骨で作った装身具（蝶形骨器）も出土しました。

【参考文献】

- ・読谷村教育委員会. 1990. 『沖縄県読谷村字長浜 吹出原遺跡』.
- ・読谷村教育委員会. 2012. 『読谷村文化財めぐり: ユンタンザ フィールドミュージアム』. 読谷村立歴史民俗資料館.

● 竪穴住居跡



### 縄文時代後期とグスク時代の集落遺跡

螺形骨器はどのように使われたのかな？  
ヒントは「世界遺産座喜味城跡コンタンザミュージアム」に展示されているよ。



グスク時代に高床倉庫があったということは、農業をしていたことを示しているのだよ。縄文時代後期は鉄の道具が無い時代。螺形骨器はどんな道具で加工したのかな。



● 掘立柱建物跡



● 土器出土状況



● 石皿

嘉手納町

か で な  
**嘉手納**  
か い づ か  
**貝塚**

嘉手納町字嘉手納



26° 21' 49.87" N  
127° 44' 57.95" E



用語解説

●荻堂式土器

北中城村の荻堂貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多く、口縁に四つの山形突起を持つ。縄文時代後期の土器で沖縄諸島及び周辺離島に分布する。



調査風景

【参考文献】

- ・新田重清・嵩元政秀. 1960. 『嘉手納貝塚発掘報告書』. In: 琉球政府文化財保護委員会(編) 『文化財要覧』.
- ・嘉手納町教育委員会. 1995. 『嘉手納町の遺跡: 詳細分布調査』.
- ・嘉手納町教育委員会. 1999. 『嘉手納町の文化財』.

遠景



嘉手納貝塚は、字嘉手納の比謝川中流の南岸沿いにある琉球石灰岩丘陵上に形成された遺跡です。1956(昭和31)年に発掘調査が行われ、縄文時代後期(約3500年前)の遺跡であることがわかりました。

貝塚からは土器、石器、骨製品等が出土しています。そのうち、ジュゴンの骨を蝶の形に似せて加工した「蝶形骨器」と呼ばれる骨製品は、アクセサリーや護符(お守り)として使用されたと考えられています。

また、本貝塚から出土した「荻堂式土器」の多くは、一般的な深鉢形の土器ですが、中には片側に注ぎ口のある壺形等の特殊な形をしたものも発見されています。

当時の人々は比謝川や海で漁をしたり、動物などを獲って生活していたのだよ。また、久米島の石で作られた石斧や岩石片が多数見つかることから、高い航海技術を持っていたのだね。



調査風景





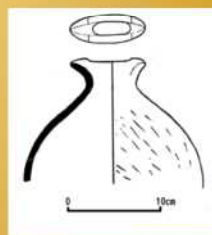
### 珍しい壺形の荻堂式土器が出土した貝塚



● 土器出土状況



● 土器出土状況



片側に注ぎ口のある壺形土器は飲み物を入れていたのかな。

● 新田重清・高元政秀. 1960. 「嘉手納貝塚発掘報告書」 In: 琉球政府文化財保護委員会(編) 『文化財要覧』.

● 「荻堂式土器」復元資料



沖繩市

や え し ま  
**八重島**  
か い づ か  
**貝塚**

沖繩市嘉間良



26° 20' 36.75" N  
127° 48' 15" E



用語解説

- 伊波式土器  
うるま市石川の伊波貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多い。縄文時代後期の土器で沖繩諸島及び周辺離島に分布する。
- 荻堂式土器  
北中城村の荻堂貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多く、口縁に四つの山形突起を持つ。縄文時代後期の土器で沖繩諸島及び周辺離島に分布する。
- 蝶形骨器  
蝶が羽を広げた形に似ていることからこの名称がつけられた。現在、沖繩県内でしか見つかっていない。主に、ジュゴンのアゴやあばらの骨を使って作られている。
- 宇佐浜式土器  
国頭村宇佐浜遺跡で最初に出土した縄文時代晩期の土器。壺形が多く口縁部が肥厚し底部は尖底が多い。
- 竪穴住居跡  
地面を浅く掘り下げて床面とし、その上部に屋根を葺く構造の住居の跡。

貝塚の近くには、「ヤシマガー」と呼ばれる井泉があり、この時代の貝塚の立地条件に合っているのだよ。



遺跡遠景



八重島貝塚は、八重島の標高80mの平坦な石灰岩台地の縁辺部と崖の斜面にあります。崖の斜面に堆積した貝塚から、縄文時代後期の「伊波式土器」や「荻堂式土器」、石器等の他、朱色に塗られた「蝶形骨器」などがみついています。また、台地上から縄文時代晩期の「宇佐浜式土器」が多く出土し、竪穴住居跡も見つかりました。

蝶形骨器の朱色にはどんな意味があるのかな。

【参考文献】  
・沖繩市立郷土博物館. 2002. 『沖繩市の遺跡』. 沖繩市教育委員会.  
・沖繩市総務部総務課編. 2008. 『沖繩市史 第四巻 自然・地理・考古編』. 沖繩市役所.



竪穴住居跡 (1989)

● 発掘調査区全景 (2013)



内陸部に形成された縄文時代後期の貝塚



● 発掘拡張区全景 (2013)



● 竪穴住居跡



● 竪穴住居跡

# 越来グスク

沖縄市城前町



26° 20' 26.33" N  
127° 48' 46.23" E

## 用語解説

### ●第一尚氏

尚思紹を始祖とし、7代目の尚徳まで64年間(1406~1469年)続いた王統。1429年、2代尚巴志のとき三山を統一した。

### ●尚泰久

1415年生まれ、1460年没。第一尚氏王統6代の王。在位は1454~1460年の7年間。仏教に深く帰依し、万国津梁の鐘など多数の鐘を造った。

### ●尚宣威

1430年生まれ、1477年没。第二尚氏王統2代の王。初代の尚円王の弟。尚円の没後、その世子の尚真が幼いため王となった。しかし在位半年(1476年8月~1477年2月)で王位を尚真に譲り、越来で暮らした。

### ●阿麻和利

生年未詳、1458年没。15世紀中ごろの勝連城主。国王・尚泰久の娘、百度踏場と結婚した。中城城主の護佐丸を討ち(護佐丸・阿麻和利の変)、続いて首里を攻略しようとしたが、百度踏場と鬼大城に察知され、首里から派遣された軍勢に滅ぼされたと言われている。

### ●鬼大城

生没年未詳。尚泰久王に仕えた武将。大城賢勇が名前。勝連城主の阿麻和利討伐の際に総大将となり、阿麻和利を滅ぼした。その後、越来城主となり、百度踏場を妻としたが、第一尚氏王統の終わりとともに滅んだと言われている。

● 幼児骨(1~6歳)(2010)



うつ伏せの屈葬(腕や足を折り曲げた状態)顔は左(南東)を向く

越来グスクは、城前町の標高80mの石灰岩丘陵に立地しています。この地域ではギイクグシクと呼ばれており、地元の古老によると、かつては頂上から東の海が見えるほど高い場所だったと言われています。現在は住宅地となっており、グスクの姿を見る事はできません。

このグスクは第一尚氏第六代の王である尚泰久や、第二尚氏第二代の王尚宣威が即位する前に住んでいた事で知られています。また、阿麻和利を討伐した鬼大城も、その功績によりこのグスクを与えられたと伝えられています。

これまでの発掘調査で、大量の貿易陶磁器やグスク土器、刀剣の鏢等の金属製品が出土しました。また、墓も見つかっており大人や子供が埋葬されていました。その他にも掘立柱建物跡と考えられる柱の穴等の遺構も発見されていますが、グスクの範囲を知る手がかりとなる外壁の石積みはまだ確認されていません。

### 【参考文献】

- ・沖縄市教育委員会。1988。『越来城』。
- ・沖縄市立郷土博物館。2002。『沖縄市の遺跡』。沖縄市教育委員会。
- ・沖縄市立郷土博物館。2014。『越来グスクの隆盛：失われた歴史と創る未来』。

### ●貿易陶磁器

海外貿易によって得られた陶磁器のこと。グスクの発掘調査で発見される貿易陶磁器は主に中国産であるが、他に朝鮮・ベトナム・タイ・日本産がある。輸入陶磁器ともいう。

### ●鏢

刀の柄(手で握るところ)と刃の間にある平たい金具。

### ●掘立柱建物

家を建てる時、柱を安定させるための石を置くが、その石を置かず、直接、柱の下部を土の中に埋めて建てた家。

●発掘調査区全景 (2010)



●発掘調査区全景 (2011)



琉球の歴史に登場する人物たちと関係が深い「ブスク」なんだね。



## 多くの遺構や遺物は伝承を裏付けるものなのか



●金属製品



ブスクの規模は東西170m、南北120mほど。柱穴群は大小40基以上が発掘されており、竪立柱建物は2棟が確認されたのだよ。



遺跡はどのように発見されるの？  
 ためになるかも！「ちよこつとコラム」



日本で最初に貝塚が発見されたのは1877(明治10)年。動物学者で、腕足類の研究をしていたアメリカ人のエドワード・シルベスター・モースによるものです。モースが横浜から東京へ向かう途中、汽車の中から貝が露出している層を見たことがきっかけでした。

モースは、貝の層が見つかった場所で発掘調査を行います。これが日本で最初の「学術発掘」となりました。発掘現場からは土器や石器などが見つかり、この貝塚は東京都品川区の大森にあったので「大森貝塚」と名づけられました。現在では「大森貝塚遺跡庭園」として整備され、縄文時代を学ぶ場になっています。沖縄では、石灰岩に形成される洞穴や裂け

目(フィッシャー)に堆積した土から、動物の化石が発見されることがあり、それが足掛かりとなって発掘調査につながります。約3万6千年前の人骨と推定される山下洞人が出土した那覇市山下町第一洞穴は、ここを訪れた女性がシカ化石を発見したことがきっかけでした。港川フィッシャーでは、会社社長でアマチュアの考古学研究者だった大山盛保(1912~1996年)さんが、動物化石を発見し、先史時代の人骨があるはずだとの信念を抱いて、発掘作業を進めたことが港川人の発見につながりました。

1972(昭和47)年の日本本土復帰以降は、経済の高度成長に伴う開発によって遺跡が発見されるケースが多くなってきています。

今も県内のどこかで知られずに眠っている遺跡がたくさんあるはず。これからどのような遺跡が発見され、私達に昔の沖縄の人々の暮らしを見せてくれるのか楽しみです。